

授与する学位の名称	修士(カウンセリング)〔Master of Science in Counseling〕	
人材養成目的	現職社会人・心理臨床専門家に対し、心理学の一領域であるカウンセリング心理学に焦点を絞り、カウンセリングの包括的・基盤教育を行い、国際的・学際的な研究の成果と方法論を習得し、他職種と連携して職場や社会での諸問題について科学的・実践的・開発的に解決して社会に貢献する高度専門職業人や大学教員を養成する。	
養成する人材像	自らの持つ豊富な職業経験を基盤としながら、心理学領域の中のカウンセリングに関する領域に焦点を当てて学修することにより、そこに関連する総合的な学識・技法を身につけ、倫理的な配慮の下に実践や研究を立案・実施する能力を持ち、直面している問題を総合的に検討し問題解決することができる、カウンセリングの総合的な能力及び研究分析能力を自らの職業環境の中で、問題解決に活用できる人材を養成する。	
修了後の進路	本学位プログラムでは、医療・教育・福祉・産業・司法等の領域において、カウンセリング関連の総合的な力を発揮し、支援対象者や職場等の精神的な健康に資する取り組みを行うことのできる指導的な立場として活躍する人材を養成する。また、博士後期課程へ進学し、更に研究を深め、教育や研究に携わる人材を養成する。	
ディプロマポリシー		
筑波大学大学院学則及び関係規則に規定する博士前期課程の修了の要件を充足したうえで、次の知識・能力を有すると認められた者に、修士(カウンセリング)の学位を授与する。		
知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力:高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	カウンセリング方法論基礎Ⅰ～Ⅲ、カウンセリング研究法Ⅰ～Ⅱ、カウンセリング心理学、生涯発達臨床心理学Ⅰ～Ⅱ、心理・教育統計法、データ解析法、国内外学会発表など
2. マネジメント能力:広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	組織心理学、キャリア心理学、心理・教育アセスメント、事例研究法、職場のメンタルヘルス、学校心理学、非行・犯罪心理学、国内外学会発表など
3. コミュニケーション能力:専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	学校教育相談、ヘルピング・スキル、カウンセリング方法論、心理療法、認知行動療法Ⅰ～Ⅱ、国内外学会発表など
4. チームワーク力:チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	グループプロセス、学校教育相談、社会調査法など
5. 国際性:国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	カウンセリング方法論基礎Ⅲ、カウンセリング研究法Ⅰ～Ⅱ、カウンセリング特別研究Ⅰ～Ⅲ、国際学会発表など
6. 研究力:カウンセリング分野における研究課題設定と研究計画を遂行するための基礎的な知識と能力	① カウンセリング分野における研究課題設定ができる ② カウンセリング分野における研究計画を遂行するための基礎的な知識と能力を修得している	カウンセリング方法論基礎Ⅰ～Ⅲ、カウンセリング研究法Ⅰ～Ⅱ、カウンセリング特別研究Ⅰ～Ⅲ、心理・教育統計法、社会調査法、データ解析法、事例研究法、国内外学会発表など
7. 専門知識:カウンセリング分野における高度な専門知識と運用能力	① カウンセリング分野における高度な専門知識を修得している ② カウンセリング分野における高度な運用能力を修得している	生涯発達臨床心理学Ⅰ～Ⅱ、学校心理学、キャリア心理学、グループプロセス、組織心理学、職場のメンタルヘルス、非行・犯罪心理学、エビデンス・ベースト・プラクティス特論、心理・教育アセスメント、国内外学会発表など

8. 倫理観: カウンセリング分野の基礎的研究能力を有する人材または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識	① カウンセリング分野の基礎的研究能力を有するまたは高度専門職業人にふさわしい倫理観を修得している ② カウンセリング分野の基礎的研究能力を有するまたは高度専門職業人にふさわしい倫理的知識を修得している	カウンセリング心理学、カウンセリング方法論基礎Ⅰ～Ⅲ、ヘルピング・スキル、エビデンス・ベースト・プラクティス特論、学校教育相談、心理療法、国内外学会発表など
学位論文に係る評価の基準		
1. 関連分野の国内外の研究動向及び先行研究の把握に基づいて、カウンセリング領域における当該研究の意義や位置づけが明確に述べられていること。 2. カウンセリング領域の国内外の発展に寄与するオリジナルな研究成果が、修士論文に相応しい量含まれていること。 3. 研究公正についての十分な知識に基づき、研究結果の信頼性が十分に検証されていること。 4. 研究結果に対する考察が妥当であるとともに、結論が客観的な根拠に基づいていること。 5. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論等が、当該分野の修士論文に相応しい形式にまとめていること。 学位論文が満たすべき水準: 主査・副査のいずれもが、上記の1～5を満たしていると判断できること 審査委員の体制: 主査1名、副査2名 審査方法: 修士論文、論文発表会、口頭試問により主査・副査が学位論文が満たすべき水準の観点から判断 審査項目: 修士論文、論文発表会、口頭試問		
カリキュラム・ポリシー		
社会人大学院生がカウンセリング関連領域の知識を身につけ、研究リテラシーを獲得して修士論文を作成することができるコースワークを編成する。		
教育課程の編成方針	発達心理学、社会心理学、臨床心理学、産業・組織心理学、教育心理学、犯罪心理学等における研究力・専門知識・倫理観とともに、カウンセリング領域における幅広い基礎的素養、広い視野、社会の多様な場での活躍を支える汎用的知識・能力を養う教育・研究指導を行う。 具体的には、必修科目で研究リテラシー力、課題発見能力、研究立案能力を身につけ、年間3回の研究発表会関連のコースワークにより研究遂行力、プレゼンテーション能力を習得する。また、選択の専門科目から、心身の健康に関する諸理論、人間の発達過程における心理社会的諸問題とその支援、現代社会における様々な問題や組織における課題、心理や教育におけるアセスメントや支援計画立案、心理研究法や統計解析などについて、討議や演習を交えて学ぶ。 なお、学生の専攻分野を軸として、関連する分野の基礎的素養や広い視野、汎用的知識・能力の涵養に資するよう、学術院共通専門基盤科目から1単位を履修することを推奨する。	
学修の方法・プロセス	(指導体制) ・カウンセリングに関わる実践的な研究能力・発表能力については、1年次から各種研究方法に関する講義・実習が行われ、個別や集団による研究指導、発表会が行われる。 ・倫理的な配慮では1年次に倫理審査に関わる講習会や説明会を開催するほか、倫理委員や指導教員を中心に個別の指導が行われる。 ・他分野・他領域との協力・連携については、学生や修了生の専門分野・就職先が多様であるため、在学中から、学生・修了生を交えた情報交換や研究協力が盛んに行われる。 ・国際的な視野に立った実践的な研究能力については、海外学会での活動や海外でカウンセリング領域の実践・研究で評価の高い大学との交流を行う。 (修学支援) ・担任を中心に全教員が、社会人大学院生固有の相談内容(仕事と学業の両立、子育て・介護等の家庭状況)について、個々に相談できる体制をとる。社会人大学院生が職場から大学に直行して学習・研究活動ができるように、データ解析室、大学院生研究室の環境等を整える。職場との関係等で土日の集中講義を一定時間数確保する。	
学修成果の評価	・1年次に研究テーマに関するプレデザイン発表を行い内容及び修士論文進捗状況を評価する。 ・2年次には、構想発表、中間発表、最終発表、口述試験において評価する。修士論文の評価の観点は、研究のオリジナリティ、論文全体の構成、分析の適切性、考察・結論の妥当性、論理の一貫性などについて、教員3名による査読と、最終発表、口述試験の観点から総合的に評価する。	

アドミッション・ポリシー

求める人材	自らの持つ豊富な職業経験を基盤として、カウンセリング関連領域における幅広い視野の獲得と専門性の深化・開発、研究技法の習得を図り、職場や社会での諸問題について科学的・実践的・開発的に解決して、社会に貢献したいという意思と意欲を持った、現職社会人・心理臨床専門家等の人材を募集する。
入学者選抜方針	入試は２段階で行う。一次試験では書類審査、論述試験の結果を総合的に判断し、二次試験は一次試験合格者に対して口述試験を実施する。口述試験結果と第一次試験の結果を総合的に判断して最終合格者を決定する。